

令和 8 年度 市長との対話集会（遠敷地区） 議事要旨

日 時： 令和 8 年 8 月 28 日（金） 19 時 00 分～20 時 30 分

場 所： 遠敷コミュニティセンター

参加者： 29 名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 交通インフラと新幹線誘致に向けた整備

- ・北陸新幹線小浜・京都（桂川）ルートの決定に伴い、小浜新駅周辺の整備と、市内周遊バス（過去の「国宝めぐりバス」等）の再検討など、二次交通の利便性向上が必要。
- ・新駅周辺整備に関して、市長が考える具体的なアイデアや方向性を聞きたい。

(2) 観光・地域資源の活用と滞在型観光の推進

- ・鯖街道（日本遺産プレミアム）やお水送りなどの観光資源について、メディアや SNS を活用した PR が不足している。静寂や自然を活かした体験型観光の整備が必要。
- ・エンゼルラインの民間投資による活用（グランピング等）や、上根来（かみねごり）地区の民泊化による自然空間の活用を図る。
- ・日帰りではなく滞在型観光を推進するため、温泉の掘削や宿泊施設の充実が求められる。
- ・新幹線工事の残土を活用し、大型商業施設やテーマパークを誘致することで、京都からのオーバーツーリズムを受け入れる仕組みを模索してはどうか。

(3) 教育・スポーツ交流と合宿受け入れ体制

- ・IT 化（SNS、AI）に伴うコミュニケーション不足が懸念される中、遠敷地区の鯖街道体験のような自然体験は非常に有効であり、都市部からの受け入れを事業化できる可能性。
- ・スポーツ交流を通じて市外の訪問者が小浜の「食」を高く評価しており、この強みをより自信を持って発信すべき。
- ・市営球場（海が見える優れた環境）で毎週のように県外の野球チームが試合に来ているが、市内にスポーツ団体向けの宿泊施設が不足しており、他町（高浜町等）へ滞在・弁当手配が流出している。せっかくなので小浜に宿泊してもらえると良い。

(4) 定住・生活環境と若者・高齢者支援

- ・高齢化に伴い、地域医療や高齢者が安心して暮らし続けられる場所の充実。
- ・若者が地元に残り、働き・活動できる場所や受け入れ体制づくりが必要（企業誘致、京都・大阪からの通勤者の呼び込み等）。
- ・若狭の里公園の活用（なばなの里の様な整備）や、竜前区でのアスレチック施設・ジップライン整備など、若者や来訪者を惹きつける挑戦的な開発。

2 市長からの主な回答

(1) 交通インフラと新駅周辺まちづくり

- ・北陸新幹線が全線開業開業する 20～30 年後の人口減少を見据え、新幹線の「速さ（利便性）」と、鯖街道等の「スロー（歴史・自然）」な要素のギャップを活かしたまちづくりを進める。
- ・新駅周辺には、文化会館の機能や、プロスポーツの試合、コンベンション、物産展などが開催可能なアリーナ型の複合施設（宿泊・商業併設）の整備が効果的であると考えている。

(2) 観光・地域資源の活用と滞在型観光の推進

- ・日本遺産の PR 強化に取り組むとともに、上根来等のあえてインフラを整備しない「知る人ぞ知る」という静寂な場所の価値（キャンプ場等）という考え方も面白い。
- ・ロケ地誘致は進行中であり、今後も映画等の撮影が予定されているため、選ばれる風景の保全に努める。温泉掘削の調査機会があれば、引き続き県へ要望する。
- ・新幹線工事の残土については、県と協議の上、企業団地や土地改良事業のほか、商業施設、テーマパークの誘致などの可能性も含め、次なる発展に繋げる活用を模索していく。

(3) 教育・スポーツ交流と合宿受け入れ体制

- ・教育（スローな体験）は小浜のブランドであり、SNS 等の影響に注視しつつ、地域での探究学習を推進する。また、市内他地域との教育交流を促進していきたい。
- ・姉妹都市（奈良市等）や他地域とのスポーツ交流は重要であり、引き続き行政としてサポートを行う。

(4) 定住・生活環境と若者・高齢者支援

- ・若者の定住には、空き家を活用したリノベーションや働く場所の創出が不可欠であり、住みたくなく・住んでみたいと思ってもらえる支援を図っていく。
- ・若者を対象とした対話集会等でニーズを把握し、子ども時代からまちづくりに参加してもらうことで「帰ってきたい」と思える環境（小さな成功体験の積み重ね）を作っていきたい。
- ・若狭の里公園へのカフェ誘致や竜前区のアスレチック構想など、若者が挑戦でき、企業が投資したくなるまちづくりを市民の皆さんとともに構築していく。